

## 人物の選定と分類はこうだ

かつて私には添田啞蟬坊、猓与太平、武林無想庵、大泉黒石、宮嶋資夫、逸見直造、山岸巳代蔵、梅原北明、岡本良一、松尾邦之助らを扱った『日本ルネッサンスの群像』（一九七七）なる書があるが、私自身のこれまでの足跡と気質上において、こうした人物を核に拡大していけばよからうと判断したのである。

とすると、これは奇人であるにしても、むしろ「ケタはずれの人物」という意味合の人々ということになり、メインタイトルは『日本番外地の群像』、副題は「リバータリアンと解放幻想」ということになった（編集部註・補遺収録にあたり一部抜粋した）。

リバータリアンということであれば、これら人物群中その名に最もふさわしいのは、高田保、新居格、西村伊作あたりではなからうか。このうち新居格は自身近接思想としてアナキズムを論じていたこともあるが、自身はまったくの自由人である。この三人くらいを核にして、左方に萩原恭次郎、菊岡久利、宮嶋資夫、生田春月、松尾邦之助らのアナキスト兼業者、右方には稲垣足

穂、金子光晴、宮田文子らの自由人群、上方には武者小路実篤、西田天香らの理想主義者、下方には辻潤、武林無想庵、深沢七郎ら虚無思想の流れがあったとみることができよう。

——このような人物群に接して、ただちに思い浮かぶのは、ここ数年來文化人類学の方面で人氣のある異人論、マージナル・マン（境界人）、ノマド（遊牧民）であろう。

マージナル・マンとは、通常の秩序、コスモスの周縁の部分にある人間の意であり、いずれも内部人間であることができず、いわば内部と外部とを行き交いする種類の人である。周縁部をさらに離れていけば、内的秩序とほとんどかかわりを持たない、自分の属する少数者集団、もしくは自己のみの判断によってさすらうノマドとなる。

マージナルの奇人たちは、中心すなわち権力からより遠いことによって、苦悶の日々もあるが、無支配の非権力的で自由な人間群たらざるをえない。しかしこれらの人々はノマドと接触する部分はあるにしろ、ノマドとはいえないだろう。彼らは現実逃避の志はあっても、むしろ逃避できず（富士正晴のように、外見的には隠者の様相をとっていても）現実に勇敢にコミットする一個の生活者なのである。

それではこれらの人々がいったいどのようなようにして生まれてくるかであるが、これは実に難しい問題である。世に「天才学」なる分野があるが、「奇人学」となると、学会でもまったく問題にされてはいないようである。

私には当人の出自、生い立ちに多くの関係があると思える。DNA的血脈までさかのほれば、家系にも狂おしい系譜を持つ坂口安吾や文字通り旅行商人の家に生まれた林芙美子、放浪の演

て急速に理想の人類社会が達成できるとした。その結果百万人のエジソンを、一千万人のシヤカ、キリスト、カント、マルクスにまさる人々を生み出せるとしている。

そうなる改良の実践そのことにおいて、大前提とならねばならないのは個人倫理（即社会倫理）ということになるのであるが、山岸はそんな生ぬるいものじゃとても駄目なので、「無我執」世界の必要を説いている。

——番外地人物の時代と思想的背景はだいたい以上のようなことであるが、このような人物を他に挙げるとするならばまだまだいくらかもあろう。

例えば歌人の安成二郎は大正五年に「文学村の三奇人」という小文を書いているが、そこには安成貞雄、坂本紅蓮洞、中村孤月の三人を挙げている。坂本は本書にも見えるが、他の安成貞雄はみずから「与太大王」と称し、名刺に「翻訳鑑定所長、高等幫間」なる二つの肩書を刷っていた。中村孤月は、「新しい女」の箱屋「青鞥」グループの用心棒」といった意）として名前を売った。

私はこのアンソロジーを編むについて、容易に手に入る単行本を扱うまいと決意した（しかも直接関係者のみの証言蒐集である）。ところがそうになると、本の方にいいものがあるのに、そこから抄出ることができず、大いに悩まされたことである。その意味では、リバータリアンの幾人かはずさざるをえなかった。例えば作家加藤一夫、詩人岡本潤、諷刺画家・エッセイストの辻まことなどがそうである。ただ岡本潤といえば、彼の著書に「ひんまがった自叙伝」の副題をも

つ『罰当たりは生きている』（未来社）がある。この書は現在にあって、大正期のアナ系文士の動きを知るには、最適な本となつている。これら一群の人物の思想と流れを知りたい方は、ぜひご一読願いたいものである。

これらのうちには、今日からみればマイナークラスの文士にすぎない者がいるだろう。しかしそこがむしろリバータリアンのリバータリアンたるゆえんでもあり、マイナーであるところにこの種人物の詩と真実があつた。たとえ文芸史上に名前のみえなくとも、その歴史上の閃光は永久に消えないはずである。

●『日本番外地の群像』（思想の海へ19、社会評論社、一九八九年）

玉川信明 (たまがわ・のぶあき)

1930年富山市旅籠町に生まれる。竹内好に師事。

著作に『評伝 辻潤』(三一書房)、『エコール・ド・パリの日本人野郎』(朝日新聞社)、『ぼくは浅草の不良少年』(作品社)、『開放下中国の暗黒』(毎日新聞社)、『我が青春、苦悩のおらびと歓喜』(現代思潮新社)、『夢はリバータリアン』、『和尚の超宗教的世界』、『異説 親鸞・浄土真宗ノート』(以上、社会評論社)など多数。2005年、当セレクションの完成を待たずに急逝。

大正アウトロー<sup>きたん</sup>奇譚  
——わが夢はリバータリアン

玉川信明セレクション 日本アウトロー<sup>きつてん</sup>烈傳 5

2006年2月20日 初版第1刷発行

著者：玉川信明

発行人：松田健二

発行所：株式会社 社会評論社

東京都文京区本郷2-3-10 ☎ 03(3814)3861 FAX 03(3818)2808

<http://www.shahyo.com>

印刷：スマイル企画＋互恵印刷＋東光印刷

製本：東和製本

本書の各章は、以下の作品よりそれぞれ収録した。

第1章～第7章

『日本ルネッサンスの群像』(白川書院、一九七七年)

第8章

『住民運動の原像』(共著、JCA出版、一九七八年)

第9章

『夢はリバータリアン』(社会評論社、一九九一年)

# 和 尚

ラジニエーシ

社会評論社刊  
玉川信明 ■ 作品紹介  
(2001-2004)

この書は私個人の人生上の問題はあれ、これだけガッツのある天才的宗教家を世に紹介したいという思いばかりのものである。これだけの神秘的で偉大な人物を日本の知識人たちはまったくと言っていいほど、無視し、マスコミ上にも取り上げられないというのは、知識人の怠慢というより悲劇である。

思い起こせば、私は私の人生の転機をつくってくれた『評伝辻潤』執筆の際にも、その動機は日本知識人への義憤であった。その意味では今回も同じ印象を持ち、心の底では、義憤というより抗議のような思いでこの和尚論を書いた。

『和尚の超宗教的世界』より

僕は結局物書きき人生の仕事を担うことになったのであるが、書きたい本を次々クリアしてゆくその間にも、親鸞本へのこだわりは変わりはない。そして大衆受けをねらったような奇人変人の伝記ものなどを一通り片づけてから、いよいよ自分の残された人生の残り寿命のことも考え、徐々に本格的な宗教ものに移っていった。

四、五十冊も読んだ頃のことであろうか、僕はため息をつき、長年愛してきた親鸞に別れを告げなければならぬことに気づいた。いったんそのように思い込んでみると、反転して、浄土真宗と親鸞の正面からの批判本を考えざるを得なかった。そして疑問をまとめてみると、その方向でちゃんと執筆可能であることに気付かされた。

『異説』親鸞・浄土真宗ノート』より

# 親 鸞



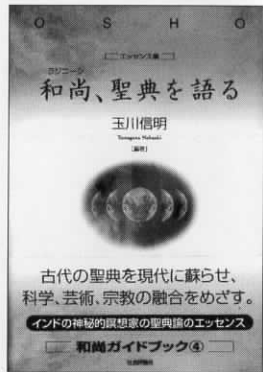
< 2001年4月刊  
**和尚の超宗教的世界**  
トランスパーソナル心理学との相対関係  
本体 2,000円 + 税

2002年2月刊 >  
**和尚、禅を語る**  
本体 2,000円 + 税

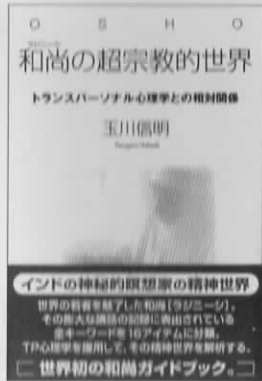
玉川信明  
ラジニエーシ  
**和尚ガイドブック**  
全4巻

< 2003年2月刊  
**和尚、性愛を語る**  
エッセンス集  
本体 2,000円 + 税

2003年12月刊 >  
**和尚、聖典を語る**  
エッセンス集  
本体 2,300円 + 税



< 2004年4月刊  
**【異説】親鸞・浄土真宗ノート**  
本体 2,600円 + 税  
阿弥陀仏による救いはついになかった。親鸞は半僧半俗の二重人格者だ、多極から他極に移った浄土真宗、仏教研究諸家による浄土教批判の3部で構成された、異説親鸞論。





玉川信明セレクション

Nobuaki TAMAGAWA Selection 2005-06

「大正」「昭和」に生きた  
日本アウトローを描く  
魅惑の作品群、ここに集成。

### 第1巻 放浪のダダイスト辻潤

俺は真性唯一者である

代表作『評伝 辻潤』に追加章をほどこした玉川・辻潤伝の決定版。●定価 4,300 円 + 税 / 432 頁

### 第2巻 エコール・ド・パリの日本人野郎

松尾邦之助交遊録

1920年代パリに集ったアウトローたちの交流にみる「日本」。●定価 3,200 円 + 税 / 320 頁

### 第3巻 反魂丹の文化史

越中富山の薬売り

漂泊の旅人・富山の薬売り(配置売薬人)の文化史。●定価 3,000 円 + 税 / 304 頁

### 第4巻 評伝 山岸巳代蔵

ニワトリ共同体の実顕者

ヤマギシ会の創始者を描き、禅とアナキズムを語る。●定価 3,400 円 + 税 / 340 頁

### 第5巻 大正アウトロー奇譚

わが夢はリバータリアン

大正に現出したアウトローたちのエネルギーを描く。●定価 3,200 円 + 税 / 320 頁